

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 21 日現在

機関番号：34307

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13329

研究課題名(和文) ヴェーダ文献における金属の研究

研究課題名(英文) A Study on Metals in Vedic Literature

研究代表者

山田 智輝 (Yamada, Tomoki)

京都光華女子大学・付置研究所・研究員

研究者番号：30722962

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ヴェーダ文献の記述を文献学的手法に基づいて網羅的に検証することにより、紀元前一千年紀の南アジアにおける、金属利用の実態を浮き彫りにした。最新の文献学的研究成果を総動員した研究を通じて、同文献群における卑金属類(ayas-「鉄」、loha-「銅」、sisa-「鉛」、trapu-「錫」)、貴金属類(hiraNya-「金」、rajata-「銀」)の利用の実態や、精製・加工技術の発展段階を、従来の研究を大きく上回る水準で検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の最大の成果は、ヴェーダ文献群における金属に関わる記述を、最新の文献学的研究成果に基づいた網羅的研究に基づき、卑金属類、貴金属類の二つに大別した上で、各文献に想定される年代の時系列に沿って、利用の段階を検証し、整理したことである。また、考古学分野との共同研究や、現地調査、さらには後代の文献の記述をも研究に援用することにより、従来の研究を大きく上回る精度で、全体像を提示することに成功した。ヴェーダ文献研究が、人類史の一時代の物質文化の理解に資することを提示することができたことも、今後の研究の可能性を拡大する意味合いを持つと言えるだろう。

研究成果の概要(英文)：The aim of this research is to understand, using philological methods, the material culture of ancient times in South Asia. Through comprehensive analysis of recent studies and examples of "verbal evidence" concerning base metals, especially "ayas-", precious metals, especially hiraNya-, and metallurgy at every stage of Vedic literature, this research examined how the usage of base metals and precious metals developed during the Vedic period.

研究分野：ヴェーダ文献学

キーワード：ヴェーダ文献 金属 ayas- hiraNya- karmAra- 鉄 金 鍛冶屋

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

#### 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、申請者は「ヴェーダ期の金属利用の実態の解明」に焦点を絞り、考古学の研究者の協力も得ながら、研究を進めていた。その最初の研究テーマとして「卑金属類」を設定し、研究を進めていた。ヴェーダ文献における金属全体については、Rau(1974)によって既に研究がなされている。しかし、Rauの研究以降、文献学的研究を取り巻く環境には、好ましい進展が数多く見られており、それらを踏まえた再検討により、新たな知見がもたらされる可能性が大いに見込まれていた。

#### 2. 研究の目的

本研究の目的は、紀元前一千年紀の南アジアにおける金属利用の実態について、ヴェーダ文献の記述を検証することによって明らかにすることである。その際、考古学等の知見をも参照し、文献の解釈に援用する。最新の文献学、並びに考古学等の研究成果を総動員し、同文献群における金属について包括的に扱うことにより、人類史の一時代の物質文化を窺い知るための一次資料の提示を目指した。

#### 3. 研究の方法

当初の予定では、「鉱物・金属」、「金属製品」、「採掘・加工(製錬、精錬、鑄造、鍛造)」の三項目に大別して、検証を進める予定であったが、ヴェーダ文献における「及び」に関わる用例は必ずしも十分と言えなかったため、「卑金属」と「貴金属」の二つに大別し、それぞれの金属の利用の展開について、ヴェーダ文献における用例を網羅的に検証した。また、考古学の知見の参照、現地調査、並びに、後代の文献に言及される金属関連項目の文献学的検証も行った。

#### 4. 研究成果

##### (1) ヴェーダ文献における卑金属類、貴金属類に関わる文献学的研究

本研究の中心的な研究成果である。同文献に登場する卑金属類(*áyas*-「卑金属全般、鉄」、*lohá-*「銅」、*trapú-*「錫」、*sáṃsa-*「鉛」)及び貴金属類(*híraṇya-*「貴金属全般、金」、*rajatá-*「銀」)並びに、冶金技術等について、用例を網羅的に検証した。本研究では、従来の研究ではあまり省みられることがなかった、「時代毎による利用段階の変遷」という点に特に着目し、その全体像を明らかにした。

【卑金属類】ヴェーダ文献最古のリグヴェーダ(RV)の段階では、卑金属には *áyas*-という語のみが用いられ、種類は区別されない。続くアタルヴァヴェーダ(AV)の段階で、*áyas*-が「黒」と「赤」の二色に分けられ、また、錫、鉛といった他の金属についても言及される。概ね同時代に位置すると考えられるヤジュルヴェーダ・サンヒター韻文部(YVS<sup>m</sup>)においても事情は同様だが、特にヴァーージャサネーイン派とタイッティリーヤ派は、*lohá-*「銅」という語を伝える(同語の初出)。ヤジュルヴェーダ・サンヒター散文部(YVS<sup>p</sup>)では、卑金属の特徴をより具体的に伝える用例が見出される。さらにシャタパタ・ブラーフマナの段階になると、*áyas*-の色分けがなされず、部分的に同語が「鉄」を限定的に指すと判断できる用例が現れる。

【貴金属類】RVにおいては、*híraṇya-*のみが、貴金属を指す語として登場する。この語は「金」のみならず、「金製品」の意でも用いられ、雌牛、馬、衣類、戦車等と並んで、戦利品や財産として頻繁に言及される。これまでに「金製の」と訳されることもあった形容詞 *híraṇyáya-*は、「神々の戦車」といった想像上の事物に対して付されることが大半であり、実質的には「金色の(Eng. "golden")」の意で用いられており、素材を意味しないものと考えられる。AVやYVS<sup>m/p</sup>では、卑金属の場合と同様に、*híraṇya-*は色によって区別され、RVの段階より若干具体性を持つ用例も見受けられるようになる。形容詞 *híraṇmáya-*「金製の」は、恐らくタイッティリーヤ・サンヒターから用いられはじめるが、この新しい語の登場は、往時の人々が、金の原材料としての側面に、特に関心を持ち始めたことを示唆する。ブラーフマナでは、*híraṇya-*のさらに具体的なイメージを看取することができる。ジャイミニヤ・ブラーフマナの一節では、「無個性な、未加工の金」について言及される。この段階では、金加工に関わる知見が、ヴェーダ文献の伝承者達の間でも、ある程度行き渡っていたものと推察される。

##### (2) 考古学分野との連携

2018年6月に、国際シンポジウム「The Iron Age in South Asia」(於関西大学)にて、発表を行った。考古学の分野のシンポジウムであることに鑑み、本発表では、各ヴェーダ文献に想定される年代順や地理的背景に特に着目しながら、卑金属類利用の歴史的展開について論じた。

##### (3) 現地調査

ヴェーダ文献を伝えた往時のインド・アーリヤ人の社会において、冶金技術はその伝統の

外部に位置する人々によって担われていたものと考えられる。そのため、金属に関わる言及は、必然的に限定される傾向にある。こういった文献の性格上の限界を切り開く方法論を確立すべく、「現代に息づく伝統」を文献学者の視点から検証することを目的とし、本年3月に、インド共和国、ラジャスタン州ウダイプルUdaipurの鍛冶屋コミュニティ「Gaduliya Lohar」(インド・アーリヤ語派のヒンディー語の話者。以下 Lohar) について、現地調査を行った。

この調査では、*dhaman*-と呼ばれる、伝統的な山羊革製の鞆を用いた鍛冶作業を実演してもらうことに成功した。*dhaman*-は語源的に、古インド・アーリヤ語の動詞語根 *dham*「(風が)吹く/(風を)吹きかける」にまで遡るが、この動詞は、最古のヴェーダ文献であるリグヴェーダ(B.C.1200年頃)以来、冶金作業に対して特徴的に用いられる。また、同文献からは、鞆には革袋(山羊革が皮革製品の主な材料だった)が用いられていたことも知られる。この調査で応募者は、紀元前一千年期の文献から窺い知られる言語情報と、現在も残る伝統との間に、連続性を見いだすことに成功した。

#### (4) パーリ聖典の記述の分析

ヴェーダ文献を伝えた往時のインド・アーリヤ人の社会において、冶金技術はその伝統の外部に位置する人々によって担われていたものと考えられ、それ故、金属に関わる言及は、必然的に限定される傾向にある。この現状を踏まえ、本研究では、ヴェーダ文献のみならず、時代的にはヴェーダ文献より幾らか下るが、物質文化に関わる具体的な記述を数多く伝えるパーリ聖典を対象とし、「鍛冶屋」について文献学的検証を行った。後代の文献から看取される鍛冶屋に関わる具体的な言及を、ヴェーダ文献理解に補完的に用いることにより、紀元前一千年紀における鍛冶屋の具体的なイメージの把握を試みた。

本研究では、「鍛冶屋」のみについて扱ったが、パーリ聖典には、金属や冶金に関わる言及がヴェーダ文献と比較すると、多く存在する。検証対象をそちらにまで拡大することにより、紀元前一千年紀における物質文化に関わる更なる知見が得られる可能性は、十分に見込まれるだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Tomoki YAMADA	4. 巻 2
2. 論文標題 On Base Metals in Vedic Literature	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 South Asian Archaeology Series 2: Iron Age In South Asia	6. 最初と最後の頁 189, 197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 山田智輝	4. 巻 第53号
2. 論文標題 ヴェーダ文献における貴金属類(hiraNya-)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 待兼山論叢哲学篇	6. 最初と最後の頁 1, 24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田智輝	4. 巻 第29号
2. 論文標題 ヴェーダ文献におけるkarmAra-とパーリ聖典におけるkammAa-: 『鍛冶屋』考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 真宗文化	6. 最初と最後の頁 37, 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 山田 智輝
2. 発表標題 ヴェーダ文献における卑金属類を巡って
3. 学会等名 第60回 日本印度学宗教学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomoki YAMADA
2. 発表標題 On Base Metals in Vedic Literature
3. 学会等名 International Symposium on Iron Age in South Asia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomoki YAMADA
2. 発表標題 On Base Metals and Precious Metals in Vedic Literature
3. 学会等名 The 7th International Vedic Workshop (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----